

大学の図書館

第43巻第9号 (No.610)

2024 9



目次

台風と合宿研修	有馬 良一 ...141
特集：広島県大学共同リポジトリ (HARP) の軌跡	
HARP の立ち上げに関わって	西川 英治 ...142
HARP の機関リポジトリシステム	森保 信吾 ...144
HARP の活動を振り返って	石井 美絵 ...145
HARP 広島県大学共同リポジトリ参加を振り返って	弥富 純子 ...147
広島市立大学での HARP から JAIRO Cloud (WEKO2) への移行	村上まゆみ ...148
HARP との 17 年	尾崎 文代 ...150

台風と合宿研修

有馬 良一

本州に直撃するかと思われた令和6年台風10号は大幅に進路を変えたうえに、自転車の如き速度で、かつ離れた地域に降水帯を伴って移動することで、長期間にわたって東海道新幹線に影響を与えた、なんとも迷惑極まる台風であった。

その台風10号によって新幹線に運休が発生しているまさにそのときに、神奈川県は湘南・葉山で「湘南リトリート2024夏」という合宿研修が開催されていた。この研修は「『2030 デジタル・ライブラリー』推進に関する検討会」が報告した「オープンサイエンスの時代にふさわしい『デジタル・ライブラリー』の実現に向けて～2030年に向けた大学図書館のロードマップ～」などを踏まえて、2030年時点のペルソナを決め、そのペルソナが求めるサービスの構築・提供について検討を行うというのが主な趣旨であった。最終日の成果発表では、生成AIの活用や資料のデジタル化の促進、メタバース空間における大学・図書館サービスの提供といった案が多く見られたほか、機関や物理的な

障壁を越えた大学・図書館の在り方について言及するものもあり、紙幅の関係であまり詳細に言及はできないが、さまざまな方と新たに知り合えたり、非公式で開催した夜の飲み会でお話ししたりといったことも含めて、非常に刺激的を受ける研修であった。本研修の開催にあたってご尽力いただいた各位には、深く謝意を表したい。

さて最後に、自分は高校卒業まで山口県東部で生まれ育ったこともあって、ゆるめのカーブファンである。具体的には、試合を見に行っても「宮島さん」が歌えたらラッキー、くらいのゆるさで応援している。閑話休題、今号の特集は広島地域グループによるCARPならぬHARP特集ということで、広島地域の共同リポジトリの誕生から終了までについてまとめられている。本学はJAIRO Cloud (JC) 利用館ではないが、あらためて台風ならぬJCが各地・各機関に及ぼした影響について感じ入ってしまった。それでは、ぜひ、今号の特集もおたのしみください！

(ありま・りょういち／神戸大学附属図書館)

特集：広島県大学共同リポジトリ（HARP）の軌跡

2008年4月にスタートした広島県大学共同リポジトリは、2023年10月に全参加機関がJAIRO Cloudに移行したことにより終了しました。

大図研の会員も多くかかわったこのプロジェクトについて、共同リポジトリがどのように運営されていたのか、成果やコミュニティの課外活動、そして終了の経緯とJAIRO Cloudへの移行について等、それぞれの参加者の思いを記録していただきました。

機関リポジトリの過渡期に立ち上げられた共同リポジトリについて、その事例を共有することで、今後の活動の参考になれば幸いです。

（特集企画担当：広島地域グループ）

HARPの立ち上げに関わって

西川 英治

1. はじめに

HARPは、2008年に広島県大学図書館協議会（以下、県大図協と称す）の加盟館が参加して共同で運用を始めたリポジトリです。正式には、広島県大学共同リポジトリ（HARP：Hiroshima Associated Repository Portal.）といいます。2008年4月30日に11大学（尾道市立大、県立広島大、広島市立大、日本赤十字広島看護大、広島経済大、広島工業大、広島国際大、広島国際学院大、広島女学院大、呉大（現：広島文化学園大）、広島文教女子大（現：広島文教大））で正式にスタートしました。

広島大学は、自館の機関リポジトリ（HiR）を公開していましたので、HARPの事務局として参加し、勉強会やメーリングリストの運営などを担当し、勉強会の講師などを務めていただきました。2023年10月31日には、参加全15機関がJAIRO Cloudに移行したことによって、HARPは、15年間続いた共同運営を終了しました。

2. HARPの成り立ち

HARPは正式にスタートする2年くらい前からその動きが始まりました。仕掛けたのは、当時広島大学附属図書館におられた尾崎文代さんです。尾崎さんは、当時国立情報学研究所（NII）が進めていた学術機関リポジトリの構築を推進する国立大学の担当者として活躍していました。ある時、尾崎さんから私に電話が掛かってきました。正確には覚えていませんが「県内の大学で機関リポジトリに参加してくれるところは、ないだろうか？」というような話であったと思います。

当時、国立大学や大規模私立大学などでは、学術機関リポジトリの構築が進んでいましたが、小規模の大学が多い県大図協で単独で機関リポジトリを立ち上げそうな大学も無いような状況でしたが、とりあえず知り合いの図書館員に電話をしてみました。結果は、8大学（広島大、広島工業大、広島経済大、広島市立大、広島修道大、広島女学院大、広島国際大、安田女子大）が集まり、2006年10月には「広島県内大学共同リポジトリ構築実験プロジェクト」として出発することになりました。

実験プロジェクトが始まると、もう一人

HARPを語るのに欠かせない人物が現れます。広島工業大学の森保信吾氏です。彼は、広島工業大学附属高校の教員をしていたそうですが、なぜかその時期には大学図書館に在籍していました。森保君は、リポジトリのソフトであるDSpaceの英語版をインストールして、個人で研究しており、システムに強く広工大で実験サーバーを立ち上げました。なお、『大学図書館研究』82巻P.32-39（2008）に「共同リポジトリの試み－広島県大学共同リポジトリ（HARP）－」¹⁾を尾崎さんと共著で発表されていますので、ご興味がお有りの方はご覧ください。

3. HARPのコミュニティ

HARPの成功を支えたのは、県大図協の事業として位置づけられ、共同リポジトリ委員会が運営をしたこと、参加館の担当者の絆、広島大学の全面的なバックアップなど、HARPコミュニティとも言える参加館のつながりだと思っています。

県大図協の事業としての位置づけについては、代表幹事館の広島大学内では時期尚早として反対意見もあったようですが、幹事館連絡会議（総会前の役員会）で異例の2回も審議して承認され、共同リポジトリ委員会を立ち上げることができたのは大きかったと思います。

また、委員会や勉強会には必ず懇親会が準備されていましたし、時々レクレーションと称して、休日に車を連ねて郊外のカレー専門店（プラシャンティ）に行ったり、呉の海上保安大学校の練習艦「こじま」の公開イベントに参加しました。2014年2月には広島空港が大雪に見舞われながら、3泊4日の沖縄旅行にも行きました。これらはHARPの正規の活動とは言えませんが、こうしたレクレーションが参加館の絆を強くし、HARPのコミュニティ形成に役立ったと思います。

この原稿を書きながら、改めて広島大学の

尾崎文代さんという人がおられなかったら、広島でHARPは誕生していなかったと、自信をもって言えます。

4. 終わりに

私は、1985年4月から2020年3月末まで広島経済大学図書館に勤務していました。大図研には1986年に入会し、1993年から2013年7月まで広島支部長を務めていました。70歳までは務めるつもりでしたが、家庭の事情で2020年3月末に69歳で大学図書館を退職しました。大図研も翌年の2021年6月末で退会しましたので、その後は、図書館とは全く無縁の生活を送っています。

昨年の年末に突然「HARPの区切りを労う会」を開催するとの案内があり、出席しました。聞けば10月末でHARPの参加館がすべてJAIRO Cloudへの移行が終わり、この会を計画したとの事でした。その席で、大図研の全国委員を務めておられた安田女子大学の楢幸子さんから原稿の執筆を打診され、この原稿を書かせていただくことになりました。すでに15年以上前の出来事で、記憶をたどりながらの作業でしたが当時を懐かしく思い出しました。有難うございました。

参考文献

- 1) 森保 信吾, 尾崎 文代, 共同リポジトリの試み－広島県大学共同リポジトリ（HARP）－, 大学図書館研究, 2008, 82 巻, p. 33-39, <https://doi.org/10.20722/jcul.1276>

（にしかわ・ひではる／

元広島経済大学図書館）

HARPの機関リポジトリシステム

森保 信吾

HARPは、当時多くの大学が導入していた機関リポジトリシステム（以下「IRシステム」）であるDSpaceを用いてスタートした。機関単独での運用を想定したDSpaceを複数の大学で共有し、共同で公開するために行った取り組みを、現在のJAIRO Cloudを意識しつつHARPのメモリアルとして自画自賛的に振り返る。

1. DSpaceの採用

HARP立ち上げ計画の当時、IRシステムの候補としては、商用では広島大学等が導入したe-repository¹⁾、オープンソースでは早稲田大学をはじめ国内の多くの大学ですでに実績があったDSpace²⁾の他、岡山大学が導入したEPrints³⁾や慶應義塾大学が導入したXooNips⁴⁾が選択肢であった。

中小規模の大学が共同でシステムを構築するためには、商用システムの利用は費用面でハードルが高い。一方、構築費用を抑えられるオープンソースシステムの利用においてはシステム構築に精通した人材が不可欠である。HARP立ち上げのプロジェクトにおいては、共同構築のメリットである適材適所の役割分担を行うことにより、後者による実現が期待できる状況にあった。

そこで、共同で利用のためのカスタマイズを考慮したうえプロジェクトチームでコンテンツ登録などを試すなどした結果、パフォーマンスもよく、国内ですでに多くの実績のあったDSpaceを採用することとした。⁵⁾

DSpaceはその後も世界的に主要な地位を占めている⁶⁾とはいえ、現在の国内においては、システム構築の負担もなく、十分なIR機能を持つWEKO3⁷⁾が稼働するJAIRO Cloudを多くの大学が選択しているのは当然であろう。例にもれずHARPの元参加機関

もこの流れに沿っている。

2. システムの共有

DSpaceは機関単独での利用を想定したシステムであったため、以下のカスタマイズ等を施すことで機関の独立性を確保した。⁸⁾

- (1) カテゴリー機能によりページを機関別に分離し、ロゴや色合いなどを変えることで機関ごとに違ったページに見せる
- (2) HARPロゴを共有しつつ各機関の名称を記載したカバーページをコンテンツに付加
- (3) ハーベスト機能において参加機関個別のbaseURLを設定
- (4) 機関ごとに管理権限を分離

アクセス統計機能についてはカスタマイズを行わなかったが、運用開始の約2年後にWebサーバApacheのアクセスログから機関毎にログ抽出する機能を別システムで構築した。余談だがこの機能はApacheのログさえあればIRシステムには依存しない設計(OAI-PMHを応用)であったため、当時この機能が未実装であった広島大学も一時期利用していた。⁹⁾

3. システムリプレイス

オープンソースのシステムを自前で構築する形は人材の有無に大きく依存するため、持続性の観点からは商用ベースのシステムに分がある。

このこと等から、2013年には複数機関でシステムの共有が可能であり、費用面も折り合った商用のEarmas¹⁰⁾にリプレイスし、その後HARP参加機関がJAIRO Cloudに移行するまで継続した。

4. JAIRO Cloudに照らして

IRシステムを共有して地域の大学でコンテンツを公開した事例はHARP立ち上げ以前にすでに存在し、山形大学を中心に行われていた。しかし負担軽減のためシステムを共

有しながらも、各機関の最低限の独立性を確保した事例はHARPが最初である。

翻って現在、JAIRO Cloudではコンテナ化技術によってIR機能が機関個別に割り当てられつつもクラウドによってシステムは一元的に管理されており、WEKO3のCMS機能によって機関独自のページデザインも様々な可能である。

システム構築の負担なく独自性を確保し機関リポジトリ構築を行えるのはJAIRO Cloudの大きな特徴の一つであると考えるが、その発想を実現した機関リポジトリは日本ではHARPが初といっていよい。

HARPの公開後多くの地域で共同構築が進んだ⁸⁾ことも踏まえると、共同構築などの手法によりシステム構築のハードルを下げるのが機関リポジトリのすそ野を広げるための重要な要素であることを、実践をもって示したと捉えることができる。その意味で、HARPは日本の機関リポジトリ発展上の重要な役割の一つを果たしたといえよう。

最後に、一つのDSpaceを基にカスタマイズによって最低限の機能分離を施し構築したことで、図らずも参加機関の結びつきの強さが視える見栄えに仕上がったと勝手に思っているが、その点は唯一JAIRO Cloudを凌ぐ点だと自負している。

参考文献

- 1) 平成17年度CSI委託事業報告交流会資料
<https://www.nii.ac.jp/irp/event/2006/debrief/pdf/hiroshima.pdf> (参照 2024-08-25)
- 2) DSpace@Waseda Universityについて 今村昭一 莊司雅之 ふみくら：早稲田大学図書館報 73巻, p. 6-7, 2005
- 3) 平成17年度CSI委託事業報告交流会資料
<https://www.nii.ac.jp/irp/event/2006/debrief/pdf/okayama.pdf> (参照 2024-08-25)
- 4) 大学図書館研究 2007 年 79 巻 p. 27-34
DOI: <https://doi.org/10.20722/jcul.1243>

5) 共同リポジトリの試み：広島県大学共同リポジトリ(HARP) 森保信吾 大学図書館研究 82 号, p.33-39, 2008

6) <https://dspace.lyrasis.org/wp-content/uploads/2023/10/AR-2023-DSpace.pdf> (参照 2024-08-25)

7) <https://rcos.nii.ac.jp/service/weko3/> (参照 2024-08-25)

8) 共同リポジトリプロジェクト報告書：国内の地域共同リポジトリの分析, <https://haul.hiroshima-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/ShareReport.pdf> (参照 2024-08-25)

9) 平成22年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系) 資料

https://www.nii.ac.jp/irp/event/2011/debrief/pdf/ss_it-hiroshima.pdf (参照 2024-08-25)

10) 開発元：株式会社ENUTechnologies

(もりやす・しんご／広島都市学園大学)

HARPの活動を振り返って

石井 美絵

2023年10月31日に運用を終了したHARPを振り返るということで、活動成果とコミュニティの課外活動の思い出をという依頼を頂いた。これを機に本学の活動を思い出とともに振り返ってみる。

1. HARP参加前

今ではあたり前となったりリポジトリだが、広島県内大学共同リポジトリ構築実験プロジェクトが立ち上がった2006年当時は、「リポジトリって何？」という状況だった。そんな状況だった本学もリポジトリに関する勉強会が開催され参加することで「リポジトリってこういうものらしいです。」へと変わっていった。複数回開催された勉強会は、リポジ

トリの企画・立案を作成するものや個別相談と多岐にわたり、リポジトリへの理解を深めるものから学内への説明・合意を得るための資料作りと導入にあたって必要なものばかりで大変心強かった。

2. HARP参加へ

2008年HARPが正式に開始することが決まり、参加申し込みの通知があったが、当時の事務長と「今後リポジトリの導入は必要だろうけど、うちは小さい大学だし運用が始まってしばらく様子を見てから検討してもよいよね」というような話をした覚えがある。いったんそれで終わっていたが、共同リポジトリ委員会初代委員長の広島経済大学の西川さんから「文教さん、まだ申し込んでないけど、みんな参加するよ。」とお電話をいただき、事務長から乗り遅れてはいけないと言われ、急遽参加に向け準備を進めることになった。それからは、学内説明のためにリポジトリの必要性や共同リポジトリへ参加する利点などの資料を作成し、館長から学長への説明、学内手続き等と進めて、なんとか最終締切日に間に合った。

開始してみると、本学を含め11大学でスタートと全大学が参加したわけではなかったので、急がなくてもよかったかと思ったが、今になってみるとあの勢いがなければ、なかなか始められなかったのではないかと思う。

3. コンテンツの登録と成果

運用が始まって、実際に論文の登録が始まった。論文の許諾の取り方や登録作業の困ったことも、メーリングリストや定期的開催される勉強会で相談でき、不安もなかった。また、同時期に始めた他大学の登録コンテンツ数をみながら、みんなも頑張っているから頑張って登録しようとモチベーションを保てた。

一番手間がかかるコンテンツのPDF化作

業も、CSI事業に採択されたことで、大学紀要や学会誌、学園史などの図書とすべて電子化することができた。自分たちだけでは、こんなにスムーズに運ばなかったと、こういったことも共同リポジトリの恩恵だと思っている。HARPのサーバー更新時のデータ移行も、システム変更による登録方法の変更なども共同リポジトリだからこそ、みんなで協力しながら乗り越えられた。

4. 普及活動のための全国行脚

2008年当時、共同リポジトリという形態が珍しいということもあり、実験プロジェクト立ち上げメンバーを中心に、リポジトリ普及のための全国行脚を行っていた。本学は正式スタートからの参加ということで発表に行くことはないだろうとのんびりしていたが、他の方の都合が合わなかったこともあり、2009年2月の沖縄地域学リポジトリ試験公開記念講演会で発表する機会をもらった。参加したばかりで沖縄に行かせてもらうなんて申し訳ないなあと思ったが、せっかくの機会と共同リポジトリの利点を中心に発表し、翌日は飛行機の時間まで、沖縄の図書館の方々も一緒に沖縄観光を楽しませてもらった。

HARPには、仕事も遊びも目いっぱい楽しむという雰囲気があったように感じる。

5. HARPレクリエーション

HARPのつながりは勉強会や懇親会だけではなく、HARPレクリエーションという課外活動もあった。HARPレクリエーションでは、「おいしいカレーを食べに行く」「沖縄旅行」「カープ野球観戦」など、いろいろなイベントが企画された。道中は、リポジトリのことや図書館業務のこと、プライベートなことなどいろいろな話をした。このような活動も通じて仕事だけの関係ではない絆もうまれ、よりよい関係性を下地としてHARPの運営にも良い結果をもたらしたのではないかと思う。

6. 最後に

HARPの活動を振り返ると、初代委員長の西川さんから始まり、担当者の方々との交流、そして大学のリポジトリを独自に立ち上げているにもかかわらず、みんなを引っ張ってってくれた広島大学の方々がいなければ、本学のような小規模大学では、リポジトリを始められなかったなあと感謝している。リポジトリの活動も含め広島県大学図書館界でできたつながりが、ほかの業務で困ったときにも相談できるという関係性にもつながり、今までたくさん助けられてきた。HARPは運用を停止したが、これからも人とのつながりを大切にしていきたい。

(いしい・みえ／広島文教大学)



JAIRO Cloud 移行後の広島県大学共同リポジトリ (HARP) のWebサイト (参照 2024-05-04)

HARP 広島県大学共同リポジトリ参加を振り返って

弥富 純子

HARP (広島県大学共同リポジトリ) の加盟館全館が、国立情報学研究所のJAIRO Cloudに移行したことを機に、本学がHARPに参加した当手を振り返り、ささやかながら思いを馳せる時間を頂戴します。

本学はHARPが広島県大学図書館協議会の正式事業として承認された2007年7月から参加しました。当時の当館は、ネットワーク環境整備の遅れ、予算削減(データベース中止)のショック、ぎりぎりの職員体制という状況で、大学図書館としての機能はどこへ行ったのかという、自問自答を繰り返しておりました。

その時に出席した学外研修で、広島大学のCSI委託授業からサーバ提供を受け、広島工業大学で実験サーバが立ち上がるなど、まさきに実験プロジェクトに参加していた大学の皆さんから、HARPへのお誘いを受けました。費用は分担、メーリングリストで情報交換、勉強会で他大学職員との交流ができるという、願ってもないお話でした。

当時のわたしは「社会情報学部」という、インターネット上の資源を用いて多くの学問を「情報」という切り口で分析し、社会に実装するという理念を持った学部にも所属していません。だからこそ「リポジトリ」という聞き慣れない新しい概念と仕組みを受け入れていただくことができ、学内の周知は一気に進みました。

もちろん構築プラン作成に際して、広島大学から、紀要編集委員会の規定を改正して、公開に向けての著作権の許諾を得ておくというノウハウをいただいたおかげという事を、忘れてはなりません。

そんな中、2009年10月に行われる埼玉県地域共同リポジトリ実務研修会への講師派遣のお話をいただきました。開催の目的は「機関リポジトリへの参加を迷っている機関に、担当者の疑問や不安を解消し、埼玉県内におけるリポジトリの普及と発展の気運を醸成させる」ことです。本学は「小規模図書館が共同リポジトリに参加して」という題目で、埼玉県に行くことになりました。

実務研修会は、大図研で常にご活躍中の文教大学図書館の鈴木正紀さんが主体となって進めておられました。事例発表は、新潟（新潟医療福祉大学）・埼玉（城西大学）・広島（3校でした）。

開催に当たって、埼玉県大学・短期大学図書館協議会の加盟館を中心に、2008年11月から運用を開始した機関リポジトリである「SUCRA（さくら）」の説明がありました。当時は埼玉大学・文教大学・城西大学の3大学が事業に参加していました。

この研修でHARPの現状として、2008・2009年度のCSI委託事業として採択されているため、年度末まではスキヤニングやアルバイトが共同利用できることや、少ない人員の中でこの事業に参加することで期間限定の利便が大きいことを説明しました。この期間を過ぎてから単独で機関リポジトリを構築する見通しが本学ではたたないと考えており、広島県大学図書館協議会の加盟館として、最大の効果を期待できる時期に参加でき、学内へも協議会の加盟館であるメリットを大いにアピールできたことを話しました。

小規模図書館ですが、大学図書館のトレンドに乗り大規模な仕事が体験できました。大学・図書館ともに、情報インフラやIT技術の時流に乗る体制が非常に大切であるという考えは今も変わりありません。また組織の中で、個人が目指す姿と現在の自分の差分を少しずつ縮めていく働き方を、「成長」と呼ぶ

のだと思います。

これからも広島県内の図書館が、「顔の見える」間柄を続けていける事を願ってやみません。

HARPに参加させていただいたことを、心よりお礼申し上げます。

（いやどみ・じゅんこ／

広島文化学園大学・短期大学）

広島市立大学での HARP から JAIRO Cloud(WEKO2) への移行

村上 まゆみ

1. はじめに

HARP（Hiroshima Associated Repository Portal＝広島県大学共同リポジトリ）は、広島県大学図書館協議会（以下、県大図協）が運営する、広島県内の公私立大学による共同の機関リポジトリです。私が参加した2017年4月以降で、記憶に新しいJAIRO Cloud（以下、JC）WEKO2への移行について、本学の事例を報告します。

2. HARPから JAIRO Cloud（WEKO2）への移行

HARPは2022年4月、運営を中止することを決定し、2023年度の適切な時期にJCに移行することになりました。

当初はWEKO3への移行が落ち着いた時期とし、2023年4月～10月を想定していました。しかし2022年10月に、この時期には移行できないことが判明し、急遽前倒して2023年1月～3月に移行することになりました。

10月中旬に全機関がJPCOAR入会申請を済ませ、11月の委員会で具体的な移行スケジュールが提案されました。全機関が一度に環境提供を受けることが難しいため、3グループに分けて移行すること、3グループに先立

ち、広島文教大学がデモ機関として移行すること等が決まりました。

3. 移行作業の実際：本学の場合

広島市立大学は、学生数約1800人、3学部
の公立大学です。移行時のコンテンツ数は
1784件でした。本学はHARPの中ではコン
テンツ数が多いため第1グループになり、早
い段階で移行作業をスタートすることになり
ました。

3.1. 移行の準備

まずはJAIRO Cloud利用申請です。申請
して2カ月後の承認になるため、2023年1月
中に環境を整えたい場合11月中の申請にな
ります。

2023年1月初旬、JC事務局よりJCの環境
が用意できた旨連絡を受け、ユーザー登録を
行いました。その後1月末にHARPの事務局
から、HARPより抽出されたデータを受取り
ました。

3.2. 移行の実際

実際に移行作業を行う中で役に立ったの
が、デモ機関として一足先に移行作業を進め
ていた広島文教大学が作成したマニュアルで
す。先行で移行作業をするだけでも大変な中、
HARP参加館のためにマニュアルを作ってく
れました。特に役に立ったのが「メタデータ
編集作業チェックリスト」です。他にも“タ
イトルごとに一括登録するほうがやりやす
い”“POS-INDEXの列に色を付けておくとや
りやすい”等細かい点まで教示してもらいま
した。もちろんマニュアルだけでは分からない
点も多く、その都度メーリングリストで質
問し回答も共有しました。またHARP参加
館ではありませんが、県大図協の加盟館で、
すでにJCに加入している安田女子大学も
メーリングリストに加わり、随時助言をもら
いました。

移行期間は当初2023年3月31日までとタ
イトなスケジュールでしたが、事務局の広島
大学がJC事務局と交渉し、7月18日までは
引き続きデータ移行作業が可能、つまり移行
が完全に終了するまでハーベストしない対応
を選択できるようになりました。この期間は
HARPも並行して公開されます。少し気が楽
になりました。

4月10日のJC公開に合わせて3月31日ま
でに全データを移行し、その後移行データの
修正を行いました。HARPとJCとはメタデー
タフォーマットが異なります。例えば、
HARPは階層構造がなくフラットなメタデー
タである、アイテムタイプに「図書の一部」
がない等、そのままの形でJCへ移行するの
が難しいケースが多くありました。ハーベス
トの切替を伴う完全移行＝正式公開をJC事
務局に依頼できたのは6月の下旬でした。

3.3. データ移行説明会

3月に、HARPで「データ移行説明会」が
行われました。これは一足先に移行を終了し
たデモ機関や移行作業中の第1グループが、
これから作業を始める第2第3グループに向
けて、作業で困ったことや対応したことを報
告し情報を共有することが目的でした。本学
は第1グループでしたので報告する立場でし
たが、この時に報告した未解決で困っている
ことについて、後日第2、第3グループから
解決策を知らせてもらいました。PDFファ
イルが2つ以上ある場合登録エラーになって
いましたが、SCfW(SWORD Client for
WEKO)の変換フィルタのメタデータセット
編集をすることで解決しました。情報を共有
することで作業がはかどることに繋がりました。

4. おわりに

HARPは参加館に限られた顔の見えるコ
ミュニティなので、困ったことがあれば気軽

にメーリングリストで聞くことができました。HARPのメンバーの協力のもとでなんとか移行作業を終了することができましたが、やはり館内に相談できる人がいないのは心細かったです。移行作業は二人以上で行うのが望ましいと感じています。一人で作業するための工夫などありましたら、ぜひご紹介ください。

(むらかみ・まゆみ／広島市立大学)

HARP との 17 年

尾崎 文代

1. はじめに

2023年10月、広島県内の公私立大学等の参加する広島県大学共同リポジトリ(Hiroshima Associated Repository Portal 以下、HARP)は、全参加機関がJAIRO Cloudに移行し、その使命を終えました。HARPの正式公開は2008年4月、これを遡る1年半の準備期間を合わせ、その運営は17年間続きました。この17年を自分史に照らすと、リポジトリや地域連携業務を経て他大学へ5年間異動、その後広島へ戻って定年を迎え現在(再雇用)に至るという時間軸であり、先日、この長きにわたる時間をつかず離れずともに過ごしたHARPサーバの電源を落とした時の感想は、寂しさ3割、感謝6割、正直よくこれまで続いたなという気持ちも1割程度ありました。

2. HARPのスタート

国内機関リポジトリ黎明期の2006年、広島大学から県内に持ち掛けたのがHARPのスタートでした。県内の大学図書館員が集まって一緒にオープンアクセスを普及させる何かができないかという、漠然とした、しかし有り余るやる気だけで出発したプロジェクト(HARPのPは当初Projectの頭文字でした)

は、案の定いろいろと壁にぶち当たりました。当時の私は、ボトムアップでプロジェクトを進める際のいわゆる作法だの手続きだのはすっ飛ばし、ノリを先行させていた感が否めないため、壁の到来は当然といえば当然であったのかもしれませんが。

そんな中で個人的に最も印象的だったのは、当時の上司に「そんな計画、時期尚早だ」と突き返されて意気消沈した私に声をかけてくれた方々の、「やるなら今」という言葉でした。すなわち、事業には作法や手続きとともにタイミングのあることを、その時実感したように思います。HARPは勢い先行かつ先駆的ではありましたが、時宜を得た取り組みであったのではないかと、いまでは思う次第です。

3. 地域共同リポジトリプロジェクト

その後HARPは、広島県大学図書館協議会の正式事業として承認され、11大学の参加を得て出発、それと同時に、国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築連携支援事業による全国各地の地域共同リポジトリ構想を推進するプロジェクト(「共同リポジトリ：モデルの構築と普及」、略称ShaRe)の中心的な存在として活動を推進していきました。このプロジェクトに連携した共同リポジトリ運営単位は、まとまりやすい参加機関数をもつ地方都市の協議会などが多く、自力で運営が困難な中小規模機関の機関リポジトリ設立を後押しし、オープンアクセスの裾野を広げようという同じ目的をもつコミュニティとの情報交換や共同作業は、本当に楽しいものでした。それぞれの地域共同リポジトリにはそれぞれ特色があり、当時、システムや運営の共有型・独立型などと分類していたことを思い出します。

われわれHARPの構造上の特長は、共同住宅(HARP)と管理人(広島大学)。各県で運営を牽引する国立大学(ホスト機関)の

スタンスとして、自らのプラットフォームに参加機関を同居させる形式が多かったのに対し、広島大学はHARPとは別個の独自リポジトリを運営し、広島県大学図書館協議会の代表幹事館としてHARPの管理を行うというものでした。そのうちHARPの方が有名になり、広島大学のコンテンツはHARPのどこに入っているの？と聞かれることもあって、悔しいような、でも嬉しいような複雑な感覚でいたのを覚えています。

広島大学が別個のリポジトリを運営していたのはHARPより先に立ち上がっていたからでもあります、結果的に、HARPがホスト機関の事情に左右される振幅が少なく、また、参加機関がその帰属意識を持てる一つの共同体として存在したことにつながり、これが長く続いた一つの理由であったとも考えています。

4. HARPからJAIRO Cloudへ

それから十数年たち、機関リポジトリやオープンアクセスが人口に膾炙されて「普通」に近づき、その裾野を拓ける役割を担うのがJAIRO Cloudとなった現在、いくつかの地域共同リポジトリも解体してJAIRO Cloudに移行していきました。この流れに関してはHARPも例外ではなく、システムリプレイスのタイミングの都度、参加機関にアンケートをとって継続方針を決めてはいましたが、常にJAIRO Cloudへの移行が視野に入っていました。そもそもHARPでは、他の地域共同リポジトリの多くが参加費を徴収していなかったのに対して、設立当初からシステムリプレイス経費の積み立てを目途として参加費を徴収しており、参加機関の数によって参加費が変動することもあることから、各機関の継続意向調査は必須でした。(かつて、NIIからJAIRO Cloud利用料を検討するにあたってHARPの参加費のことを聞かれたことがあります、少額でビジネスモデルにならな

いと言われたこともありました。(笑))

2023年に保守期限が到来するHARPのシステム（ソフトウェアはEARMAS）リプレイスについて、奇しくも私が広島に戻った年から広島大学内で検討を始めましたが、広島大学内のオンプレミスから外部クラウドへの移行がマストであり、この環境をHARP単独で持つことが経費面とマンパワーの面から可能かということが論点になりました。参加機関の現在の担当者にとっては最初からHARPが存在し登録業務だけの従事者で運営できている、いわば望ましい安定期であるともいえる現在、これから新たに自前クラウドでHARPを構築し直して管理運営を行っていくことは、そのマンパワーから考えると困難であろうと思われました。

2008年の設立時、立ち上げに関わった機関にはパイオニアとしての確かな熱量があり、それは、HARPという形を実現することで維持されていましたが、運営が安定するにつれてその熱量が落ちていくのは自然なこと、これはどんな事業に関しても同様であり、サステナビリティとはそういう過程を経て高めていくものだと感じます。HARPの求心性は低下しても、大切なのはみんなが安定してリポジトリ事業を継続していくことだと、このとき考えたように思います。

2021年に参加館に数回行ったアンケートの回答は、自前クラウドでもHARPを続けたいという声が大半で、経費面のメリットもさることながらHARPのコミュニティが心強いからという声が多く、立ち上げ時のことを思い返して情に絆されそうにもなりました。しかし、参加機関が減少していった場合に持続できなくなるかもしれないという不安の声もあり、おそらくこれは全員が感じていたことであろう、ここは全員でJAIRO Cloudに移行するのが幸せではないだろうか、と広島大学から提案したところ、反対意見はありませんでした。そして、メーリングリストな

どでHARPコミュニティは存続させることとして、2022年3月、全員一致でJAIRO Cloudへの移行を決めました。

その後はコミュニティの良さを活かして情報交換しながら2023年9月には全機関で無事移行を終了、その年末には立ち上げ期に関わった方々で集まり、17年間を振り返りながら（仕事より遊びに行った思い出話が多かったですが（笑）、懐かしく楽しい時間を過ごしてHARPの終了を祝福しました。

5. まとめにかえて

HARPとの17年、17年というと私の図書館員人生のほぼ半分を占めていたということにいまさらながら驚くのですが、この間、HARPが与えてくれたものは、一つのことを始めることと維持していくことの、困難で楽しい大切な経験と、それらを成し得たコミュニティの力の素晴らしさでした。ありがとう、そして、おつかれさま。

かつて私はHARPのことを、「近所のこどもたちの成長を見守っている」ようだと思っていましたが、昨年、そのこどもたちは成長して巣立っていきました。みんなの次のステップも、近所のおばちゃんはずっと応援しとるけんね！

参考文献：

・森保信吾、尾崎文代．“共同リポジトリの試み：広島県大学共同リポジトリ（HARP）”．大学図書館研究．vol.82， p.33-39, 2008-03-25
<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00028121>
（参照 2024-08-05）

・“共同リポジトリプロジェクト報告書：国内の地域共同リポジトリの分析” 2010-03-31
<https://haul.hiroshima-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/ShareReport.pdf>
（参照 2024-08-05）

・尾崎文代．“わが機関リポジトリを語る 広島大学学術情報リポジトリ、広島県大学共同リ

ポジトリ”．SPARC Japan Newsletter. No.4, 2010-03

<https://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-4.pdf>
（参照 2024-08-05）

・広島県大学図書館協議会活動記録 広島県大学共同リポジトリ HARP

<https://haul.hiroshima-u.ac.jp/harp>
（参照 2024-08-05）

（おざき・ふみよ／広島大学）

広島県大学共同リポジトリ (HARP) の活動記録

年月	出来事
2006年10月	広島県内大学共同リポジトリ構築実験プロジェクト (Hiroshima Associated Repository Project : HARP※) 8大学 (広島大学、広島工業大学、広島経済大学、広島市立大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島国際大学、安田女子大学) でスタート ※2008年の共同リポジトリ構築後も略称は継承。HARPのPはPortalに変更
2006年12月	広島工業大学に実験サーバ (Dspace、XooNIPS) たちあげ
2007年7月	広島県大学図書館協議会総会で承認され共同リポジトリ委員会設立 平成18 (2006) 年度CSI委託事業報告会「HiRとHARP」
2008年4月	呉大学、尾道市立大学、広島国際大学、広島女学院大学、広島国際学院大学、 広島工業大学、広島市立大学、広島文教女子大学、広島経済大学、日本赤十字 広島看護大学、県立広島大学の11大学でHARP※スタート ※広島県大学共同リポジトリ (Hiroshima Associated Repository Portal : HARP)
2008年7月	CSI委託事業ShaRe (共同リポジトリ) スタート
2009年3月	文部科学省平成19 (2007) 年度学術情報基盤実態調査 「大学図書館の特色ある取組」で紹介される
2009年4月	比治山大学が参加：参加機関数12
2009年7月	平成20 (2008) 年度CSI委託事業報告交流会で発表 ポスターセッションにて「自治会長賞」受賞
2010年12月	呉工業高等専門学校が参加：参加機関数13
2012年2月	福山市立大学が参加：参加機関数14
2013年2月	海上保安大学校が参加：参加機関数15
2013年11月	サーバをリプレイスしてDspaceからEarmasへ変更
2014年6月	広島都市学園大学が参加：参加機関数16
2015～2021年	広島県大学図書館協議会共同リポジトリ委員会、勉強会を年1～2回開催
2022年1月	2023年以降のHARPシステム継続について意向調査実施
2022年7月	広島県大学図書館協議会総会で令和5 (2023) 年度中のHARP停止決定
2023年1月	HARPからJAIRO Cloudへの移行を開始
2023年9月	全機関のJAIRO Cloudへの移行が終了
2023年10月	HARPシステムを停止
2023年12月	HARPの区切りを労う会開催
2024年7月	広島県大学図書館協議会総会で共同リポジトリ委員会廃止決定 HARPコミュニティはメーリングリスト等にて継続

広島県大学共同リポジトリ (HARP) 沿革 <https://haul.hiroshima-u.ac.jp/harp> (参照2024-08-25)
より山下真佑美 抜粋

皆さまからの投稿をお待ちしております

本会報『大学の図書館』は、大学図書館に係る動きを会員間で共有するための媒体です。日常の業務実践や活動報告、大図研の活動や大学図書館をめぐる諸問題についての主張など、会員の皆様からの投稿を募集しています。

目安として、1記事あたり、1,600字程度（仕上がり2ページ）ですが、ご相談に応じます。

また、掲載時期もご相談に応じます。

まずは、会報編集委員会 dtk_kh@daitoken.com にお問合せくださいませ。

（会報編集委員会）

2024/2025 度会費納入のお願い

大学図書館研究会事務局会費徴収担当

大学図書館研究会の会費は、会則第15条に定められているとおり、前納制です。

大学図書館研究会 会則（抄）

第15条 この会の経費は会費、事業収入および寄付金でまかない、会員は会費として年額5,000円を前納しなければなりません。

（中略）

4 この会の会計年度は7月1日より始まり、翌年6月30日に終わります。

会費納入がお済でない会員各位、会費の納入をお願い申し上げます。

グループご所属の方は、グループ活動費も合わせてお納めください。

会の安定的な運営のため、ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

会費納入について：事務局会費徴収担当 kaihi@daitoken.com

156 大学の図書館 43巻9号 No.610

大学の図書館 第43巻第9号 (No.610) 2024年9月25日 (毎月25日発行) ISSN : 0286-6854

編集・発行：大学図書館研究会 年間予約購読料：送料共6,000円

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒305-0033 茨城県つくば市東新井10-1-111 マザータンク気付

E-mail : shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> 三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座：1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 浜松町ダイヤビル2F

E-mail : dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座：00190-2-79769 大学図書館研究会

次号刊行遅れのお詫び

次号、第43巻第10号 (No.611) (2024年10月号) は、第55回全国大会の様様を速報にてお伝えする、「全国大会フラッシュ」を特集する予定です。

標記大会が9月下旬に開催されることから、次号は若干遅れて刊行される見込みです。

(会報編集委員会)

事務局組織担当より

新規会員募集中！

日頃より組織運営にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

会員の皆さまの周りに大図研にご興味をお持ちの方はいらっしゃいませんか。もしくは知見を拡げたい、図書館関係者とのつながりを増やしたい、学べるイベントに参加したいといった意欲をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ大図研にお誘いください。

入会に関してご不明の点がありましたら、お気軽に組織担当までご連絡ください。一人でも多くの方のご連絡を心よりお待ちしております。

事務局組織担当： soshiki@daitoken.com

大学図書館研究会 入会案内・入会申込ページ https://www.daitoken.com/admission_guide/index.html

会員情報 (会報の送付先住所、メールアドレス、所属など) について変更があった場合も、組織担当までご連絡ください。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。